

牛久市文化財保護審議委員 栗原 功

川村理助(現・岡見町出身)と吉田弥平(現・上柏田町出身)③

— 明治・大正時代に東京高等師範学校の教授として奉職 —

吉田弥平と嘉納治五郎(講道館柔道創始者)

— はじめての清国人留学生教育 —



吉田 弥平

吉田弥平は、明治2年(1869年)に河内郡柏田村(現・上柏田町)の農業を営む町田清七の長男として生まれた。下根村の下の小学校、中等小学校、上等小学校に学び、茨城師範学校を出て、東京高等師範学校に進む。明治27年(1894年)3月に同校の文学科を卒業すると、兵庫県尋常師範学校の教諭、同39年(1906年)には東京高等師範学校助教授、次いで教授を拝命した。町田は、国文学者でもあり、師範学校や中等学校(旧制中学)の国文教科書の編さんにも従事した。一方、

町田は、東京府の土族(旧旗本)・吉田家の婿養子になった。吉田の長女しづは、俳句界の大御所水原秋桜子の夫人になっていく。吉田は、出身地岡田村の村歌を校閲し、母校の茨城師範学校校歌も校閲している。嘉納治五郎は、東京高等師範学校で校長として長年奉職していた。嘉納は、万延元年(1860年)の年暮府の大老井伊直弼が桜田門外で暗殺されたに摂津国(現在は一部が大阪府、一部が兵庫県)の灘(神戸市東部)で出生。東京帝国大学(現・東京大学)卒。在学中、天神

真楊流柔術と起倒流を学ぶ。この2流と他流を取捨選択して講道館柔道を編み出し、「柔をもって剛を制す」を目的に、徳育・知育・体育の3要素を取り入れ精力最善活用を根本原理とした。明治24年(1891年)に第5高等中学校校長に就任し、同30年(1897年)に東京高等師範学校の校長に就任した。同42年(1909年)に日本最初のI.O.C委員に就任し、同44年(1911年)に大日本体育協会初代会長に就任して、同45年(1912年)にはストックホルムオリンピックに選手2人を連れ

て初参加した。洋行して近代的体育論を展開し、講道館柔道を国際的近代スポーツに高めて、スポーツの父と称された。昭和11年(1936年)のI.O.C総会で東京オリンピック招致(昭和15年(1940年)9月開催)に成功(時局により中止)した。

ところで、日清戦争が終わった翌年、明治29年(1896年)5月、清国政府は、総理衙門での選抜試験に合格した13名の日本留学生を東京へ送ってきた。第2次伊藤博文内閣の外務大臣兼文部大臣西園寺公望は、駐日清国公使裕庚の依頼を受けて、第五高等中学校

校長(翌年東京高等師範学校校長に就任)嘉納治五郎にその13名の教育を委託した。嘉納は、神田三崎町に民家を借りて、留学生を収容した。校舎兼寄宿舎である。はじめての清国人留学生のための学校であったが、その学校には名はなかった。斯くして、明治32年(1899年)、3年間の教育課程を終わった。13名の留学生のうち卒業したのは、7名(6名は事情により途中で帰国)であった。この7名に嘉納治五郎より履修証書が授与された。履修証書には4名の講師の証明があり、その中に吉田弥平の名があった。



池井貴次(写真) 頌徳碑
大正2年(1913年)5月建立
東京高等師範学校校長嘉納治五郎述
東京高等師範学校教授吉田弥平撰
茨城県稲敷郡長松浦昌書
所在地、柏田神社境内
写真は東端穴誌・里の風土記より引用